

クラブカップ2000

報告： 木村佳司



ピジブル地点を駆け抜ける多摩のランナーと旗を振って応援するサポーター

多摩 OL 2 連覇！

強い！ 予想どおり多摩 OL は強かった。

序盤は制限選手を使って、後半にエースを投入するといった、いつもの多摩 OL の戦略がズバリの中した戦い方だった。

序盤こそ制限選手を投入してトップに遅れをとるものの、1走では70歳とは思えない速さで次につないだ高橋厚。そこからじりじりと順位を上げてゆき、4走でライバルの OLP 兵庫を抜き去りトップに立った。その後も食い下がるライバル達をジリジリと引き離してゆき、最後は2位に8分半の差をつけて、ウイニングランを飾った。

強豪である京葉 OLC アンカーにエース松澤を送りこんだが、いくら松澤でもトップとの15分差をひっくり返すことはできなかった。

関西の雄としてクラブカップに挑んだ OLP 兵庫は中盤トップでレースを運んだものの、中盤以降は2位に下がり、最後は京葉 OLC の松澤の猛追を受けることになるが何とか逃げ切った。

同時に開催されたベテランカップはアンカーの中間地点まで OLP 兵庫が独走に入っていたが、最後の最後で大逆転が起こった。OLP 兵庫のアンカーがレース後半の最も難易度の高い部分で大きなミスをしている間に、東京 OLC がトップでフィニッシュレーンを駆け抜けた。

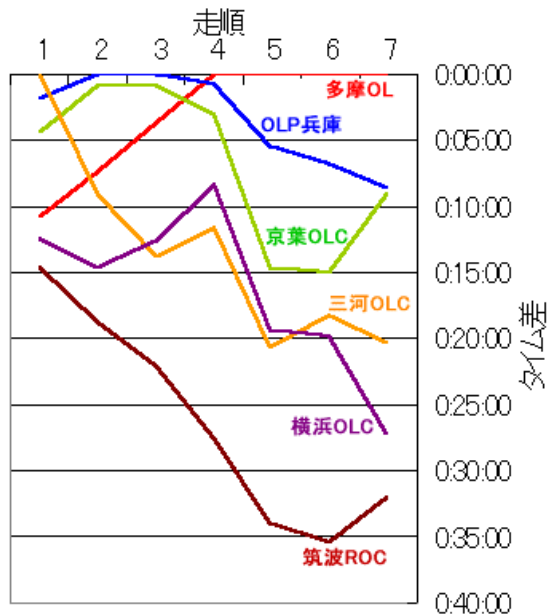
真夏の暑い高原で、熱い熱いレースが繰り広げられた。クラブの中の7人がそれぞれの役目を果たしてぶつかり合う、クラブの総力戦がそこにはあった。

成績速報

クラブカップ(上位のみ)

1. 多摩 OL - A	255.01
2. OLP 兵庫 - A	263.33
3. 京葉 OLC クラブ A	264.04
4. 三河 OLC - B	275.11
5. 横浜 OLC クラブ A	282.04
6. つくば ROC - B	287.02

クラブカップ2000 上位成績の推移



上尾 OLC - A	(292.39 / 1 走 DISQ)
7. Team 白樺 - A	294.34
8. 大阪 OLC - A	297.25
9. トチノスケ A	299.31
10. 多摩 OL - D	300.55
11. 千葉 OLC K	308.34
杏友会 15 期 A	(308.37 / 1 走 DISQ)
12. チームルセ	309.41
13. ウルトラクラブ	311.16
14. E S 関東 C 大江戸	311.29
15. みちの会 A	313.00
16. 東京 OLC クラブ A	313.51
東工大 A	316.40 open1 位
17. 方向首痴会 A	318.29
18. 人間市 OLC - A	323.58
19. 京葉 OLC クラブ B	324.45
20. 浜松 OLC - B	328.27
21. サン・スーシ A	332.46
22. 丘の上	337.50
東大 OLC K 19&20 期	338.00 open

23. 静岡 O L C - A	338.58	
24. J A N E T S - A	339.37	
25. 朱雀 O K - B	342.45	
26. かすいち倶楽部 - A	349.25	
27. つるまい O L C - A	349.50	
28. O L C レオ	350.20	
柳下大 O L C - B	353.58	open
29. 筑波大学 - A	355.04	
新潟大学 O C - B	357.24	open
杏友会 17 期	360.02	open
30. 慶應義塾大 O L C - A	367.28	
31. 広島 O L C	370.32	
32. 横浜 O L クラブ B	373.03	
33. Forester - A	373.42	
34. 99 入学同期会 A	379.43	

ベテランカップ

1. 東京 O L クラブ	202.25
2. O L P 兵庫	204.21
3. 愛知 O L C - A	204.40
4. サン・スーシ	204.53
5. 松阪 O L C	230.02
6. ワンダラーズ	233.57
7. 春日部 O L C	243.12
8. 愛知 O L C - B	309.21
9. つるまい O L C	310.13

クラブカップ 7 人リレー大会のあらまし

岐阜県坂下町の椈の湖オートキャンプ場でクラブカップ 2000 が行われた。この大会は 1993 年に開催された 6 人リレー大会から始まり、大人数で競うクラブ対抗戦として次第に人気を博してきた大会である。昨年の菅平高原での大会より 7 人リレー制となり、ルールも簡素化され一層の盛り上がりを見せるようになった。昨年の菅平高原大会ではエントリー人数が 1000 名を超え、リレー大会としての規模は学生選手権のインカレリレーと肩を並べるまでになった。

今年に関東からやや地理的に離れたためか、参加人数は昨年より微減したものの、各クラブのとりくみはますますヒートアップした内容となった。

今回のテレインは東海地区を代表するテレインの一つ「椈の湖」である。このテレインはかつてインカレリレー用のテレインとしてお目見えした、素晴らしい通行可能度と緩斜面を誇るテレインで、その後もリメイクされ、1998 年にはインカレショート、スポレク大会などで使用されている。

主催者より

山川です。おかげさまで、第 8 回大会は無事盛大のうちを終えることができました。

多摩 O L の皆さんがどんな準備をしているか知っていただけに今年の優勝は当然のように思いました。

それでも、ハラハラドキドキプレッシャーいっぱいでのレースに望む皆さんを見ていて、運営者冥利につきますね。

極小人数でこれだけの運営をして大会を毎年作り上げるのは本当に大変で大変で眠くても眠くてもそれで

も延々と仕事が続くのですが、やっぱり、やってよかった、そしてまた来年もやろう、と思ってしまうところがこの大会の魅力ですかね。

でも、これは私達だけでなくこの大会に真剣に参加してくれる皆さんが造り上げた価値でもあると確信している次第です。ありがとうございました。

The perfect game

多摩オリエンテーリングクラブ監督 菅原 琢

まず、インターネットに接続できる方は昨年の優勝の際に成績表向けに書いた文書を参照していただけだと思います。(URL は <http://www.orientteering.com/~clubcup/1999/result/index.html> です。昨年の成績表が実際に届いたのは今年の大会の 1 週間前だったのですが……)

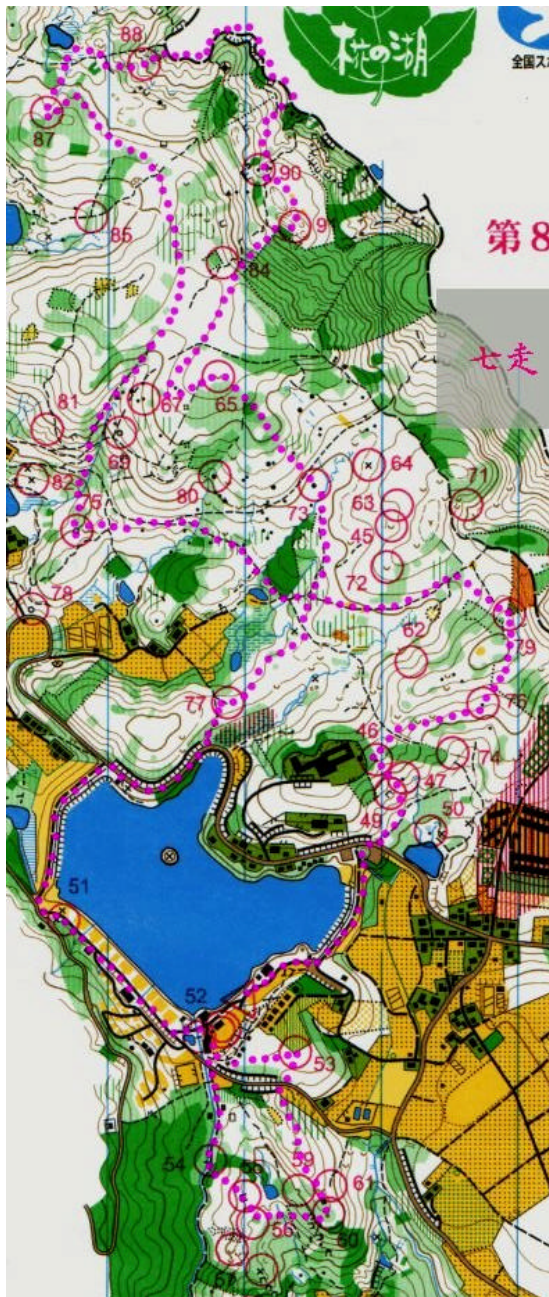
昨年の優勝(第 7 回、1999 菅平高原)は、まさに「挑戦者としての優勝」(山川氏)でした。第 1 回(1993 泉郷)・第 2 回(1994 根の上高原)の序盤の出遅れを「横綱相撲」(山川氏)でひっくり返しての優勝とは違う、綿密な準備と計算を積み重ね、京葉 O L クラブの追撃を振り切ったの優勝はまだ記憶に新しいものです。

昨年、優勝するために費やしたパワーと、得られた喜びは忘れることのできないものでした。遠ざかっていた優勝を再び手中に収めるために監督をおき、「勝つために」クラブで、個人で、がんばった結果があつた優勝でした。

そして再びあの感動と美酒を味わうために我々は始動したのでした。昨年マッチレースの結果、僅差で敗れた京葉 O L クラブ、失格に泣いた関西の雄 O L P 兵庫、彼らが打倒多摩 O L に燃えるのは十分に予想できたし、彼らを破ることなく優勝カップを手にすることはできたと覚悟していました。

ある意味、優勝は「勢い」でできてしまうことがあるかも知れません。しかし、連覇となればそうはいきません。第 1 回、第 2 回のころの参加チームがまだ少なく皆のモチベーションも今と比べればそれほど高くなかった頃ならいざ知らず、実力が伯仲している昨今、連覇することは本当に難しいことだと思います。だから、今回の優勝は単なる 1 レースの勝利ではなく、クラブをあげて勝ち取った「連覇」である、ということを強調したいと思います。

誕生以来 8 回を数える大会で 4 回の優勝を数える我々多摩 O L。(そろそろ KING OF CLUB と名乗ってもよろしいでしょうか?)「一生懸命たのしもう」と監督は常々言ってきました。レース当日の 30 分だけではなく、その準備過程から一生懸命やろう、一生懸命たのしもうと言ってきました。それがほんとうの「強さ」を生み出せたのだと思います。A チームの 7 人だけではなく、B ~ D チームの 21 人、それに応援専従だった選手の家族、みんな大いに楽しめたと思います。もし、「応援の部」があつたらこちらでも優勝していたと断言できます。



多摩OL-Aチーム7走上坂のルート

レースを振り返ってみますと、1走にはA制限選手を4人並べましたが、4人(40、70、39、51)とも40~44分できちんと帰ってきて後続につなぎました。トップからは12分ほど、女性ながら大健闘の中村正子さん(京葉OLクラブ)より6分ほど遅れましたが、A制限選手としては完璧とも言える結果でした。Aチームの高橋厚さんは70歳、間違いなく歴代の優勝メンバーの最年長記録でしょう。本当に素晴らしい、ファイトあふれる走りでした。

2走は昨年同様、菅原琢が「セットアップ」としてゲームメイクを意識した走り。ここでは(5走に登場すると読んでいたのですが)京葉OLクラブの早野哲朗さ

んが菅原を上回る快走を見せました。京葉の勝負に賭ける執念を見せられた気がしました。3走は昨年の代表だった太田宏樹君を押しつけて起用された成長株の多田宗弘君。意気を感じてくれたのか、上位との差を半分縮める快走でした。彼の快走で他チームの目論見が崩れたのではないかと思います。この時点で、OLP兵庫、京葉OLクラブ、多摩OLの3強対決を予想しました。(4位は既に8分遅れ)

4走は、菅原共々過去の優勝にすべて選手として足跡を残してきたヨルク・フェッテル選手。この秋、転勤で日本を去ってしまう彼に何としても優勝を手みやげに持たせたい、という気持ちがクラブ内には強かったのですが、彼自身も有終の美を飾るべく最高のパフォーマンスを発揮してくれました。事前の計画通り、ここで望みの首位に立ちました。

5走、ここはB制限選手を投入するのが一般的かと思いますが、非制限選手並のパフォーマンスを発揮した宇野浩一さんが見事、独走ロケットに点火してくれました。ここではA制限選手(61歳)ながら40分を切るタイムで優勝戦線に踏みとどまった尾上俊雄さん(OLP兵庫)の善戦が光りました。OLP兵庫に5分、京葉OLクラブに15分のアドバンテージを持って終盤戦を迎えました。今回、3-4-5走の中盤が面白いように快走したことで、多摩楽勝と映ったかも知れません。しかし監督としてはまだまだ安心できる心境ではありませんでした。京葉OLクラブのアンカー松澤俊行君の存在はそれほど脅威でした。実際、我々は「逃げ切るには松澤君までに5分(のリード)」と思い、京葉OLクラブは「松澤君までに5分の差なら逆転可能」と考えていました。

6走は富田吉郎君、エリートらしい堅い走りその後続を寄せ付けずキッチリとアンカーにつないでくれました。最終7走は昨年に引き続き、上坂寛之君が長いエリートコースをこなして予想通りの時間にビジュアルレーンに最初に現れました。その数分後、7人揃ってのウイングラン、最高でした。その後OLP兵庫が京葉OLCの猛追をかわして8分半差で2位、気迫あふれる松澤クンの走りです9分差まで(OLP兵庫まで30秒)迫った京葉OLクラブが3位に入ったのでした。

とかくAチームだけにスポットライトがあたりがちですが、我々のBチームも6走の段階で6位まで順位を上げていました。Cチームも大いに楽しみ、大いに熱くなって50位前後で無事完走。Dチームもリスタートにはなったものの、きちんと完走。速い遅いだけではなく、きちんとオリエンタリングを楽しめたのではないかと思います。テントサイトの前をひっきりなしにだれかが通過している感じで応援にも熱が入りました。完走してナンボのリレー、今年もまた失格者を出さずに終われたことも大いに誇りたいと思います。

今年の大会はクラブカップの歴史上、初めて参加チーム数が前年を下回ったと言います。プログラムにも「遠隔地開催によるものか、競技人口の減少によるものかはわからないが」と書かれています。が、「クラブ力」の盛り上がりこそが日本OL界の発展につながる(というより直結している)と私は思います。全日本リレー選手権という別の「枠組み」もありますが、日本OL界にパワーを生むのはクラブカップであり、学生選手権(インカレ)だと思います。ますます、クラブカップが発展していくことを強く、強く祈念しています。

私の思い入れで言わせてもらえば、クラブカップの理念を競技者として理解したいものです。その日限りの刹那的な楽しみではなく、腰を据えて準備から楽しむ、それこそがクラブカップ。「君はどこのクラブ？」とどこで、だれに聞かれても答えられるのがその人の「クラブ」だと思います。大会要項のレギュレーションに合わせた「数合わせ」ではなく、その「心」を大切にもらいたい。せっかく「クラブ」に入っているのにそのクラブから出場しないなんて、あまりにもったいない。もっとクラブを大切にもらいたいと思います。最低限、レギュレーションに合わないチームは「正規チーム」としてエントリーして来るべきではないと思います。(日本代表チームや、同期会といったチームは果たして正規なクラブでしょうか?)腕試しがしたいなら OPEN 宣言すれば済むことです。でも、それよりは、たとえ弱小チームしか組めなくても、ぜひ「あなたのクラブ」から出場してもらいたいと思います。

学生さんは大学のクラブを大切にしましょう、インカレで熱く熱く燃えて下さい。卒業後、同期会やOB会で充電するのも良いでしょう。でも、時期を見てぜひ地域クラブに身を置いてもらいたいですね。楽しむだけでなく、時には楽しませる側にまわることも面白いものです。「クラブ」にはきっと新しい発見があるはずですよ。

今回、監督は薄氷を踏む思いでゲームの進行を見守りました。実力が伯仲している現在、「絶対」はあり得ません。そういった意味で「今年は横綱相撲」と思われるのはやや心外な部分もあります。それでも、7人が取りこぼしなく繋ぎ切った、実力を出し切ったのはみんなの声援の後押しの賜物だったと信じています。Perfect game でした。文字通り、クラブ一丸の勝利でした。クラブのモットー、one for all, all for one そのものでした。

今年は世界学生選手権遠征(ユニバー)のために大黒柱を欠いた有力チームもありました。来年は多くのクラブが今まで以上に打倒・多摩OLに燃えてくるでしょう。連覇は難しい、と冒頭に書きましたがその難しさは今年の比ではないでしょう。それでも、我々は史上初の三連覇に向けて、1年間たっぴりと楽しんでいきたいです。

全国のクラブの皆さん、来年の9月9日、駒ヶ根で熱い戦いを繰り広げようではありませんか。勝った、負けたと涙できるのはすばらしいことだとは思いませんか?各クラブが盛り上がれば、きっと主催者も盛り上がります。より素晴らしいイベントになります。そんな勢いが2005年に続く道のり、きっと良い影響を与えてくれるんだと思います。オリエンテーリングが大好きなみんなが参加者であって欲しい大会、それがクラブカップです。

オリエンテーリングに夢中になる機会って、ありそうで実はあまりないとは思いませんか?学生にはインカレ(学生選手権)があります。名実共に1年を賭けるにふさわしいイベントだと思います。じゃあ、大学を卒業してしまったら?世界選手権という究極の目標はあるでしょうが、予選会を含めそのステージに立てる人は限られています。もう少し目線にあった目標という意味でクラブカップは貴重ですよ。制限選手という名の「しぼり」のおかげで単なるエリート選手だけのイベントではなく、クラブをあげてのイベント

になっています。大好きなクラブの一員として1年間じっくり準備して、自分のレースに、チームのレースに、クラブのレースに一生懸命になるってことは本当に素晴らしいことではないでしょうか?

最後に、多摩OLでは、一緒にオリエンテーリングを楽しんでいく仲間を常時募集中です。ぜひ気軽におたずね下さい。(特に、大学等卒業後3年間は特典を用意しています H P参照)一緒にいい汗を流しませんか?また、秋の公認大会、冬のジュニアチャンピオン大会と一緒に運営してみませんか?

11月26日の創立30周年記念大会(JOA公認大会)への参加、お待ちしております。本大会は、東京都内、最寄駅から徒歩で行ける便利な大会です。リメイクマップですが20年ぶりの開催地ですので、多くの方にとっては、ニューマップ・新規トレインが味わえます。地図は、1:10000、OCAD作図、通行可能度4段階表示です。通常エントリーのメ切は9月末日、300円増しの遅れエントリーのメ切は10月末日となっております。個人クラス事前申し込みの方には、記念品をご用意させていただきます。(テライン内にある身体障害者施設で特別に製作していただいたオリジナル品です!)・駐車場も約70台確保しました(駐車券発行)

クラブカップの模様、30周年記念大会に関する情報などは多摩OL公式ホームページを是非ご覧ください。

<http://www.orienteering.com/~tama/>
mailto:tama@orienteering.com

クラブカップ前夜 GPS ナイトマッチレースについて

高島和宏

クラブカップ前夜に椛の湖オートキャンプ場にて、クラブカップの開会式が行われ、続いてナイトオリエンテーリングが行われた。このナイト0の中で2組のGPSマッチレースも同時開催した。今回のGPSナイトオリエンテーリングは、現在急速に発展しつつある情報産業技術、いわゆるIT技術をフル活用した、日本で、いや世界で最も進んだ試みとなった。



マッチレース映像に見入る観客たち

オリエンテーリングをどこまで見せる競技をできるのかは色々なイベントで色々と試行されている。その中で GPS、いわゆるカーナビと同じ技術を使用して選手の走行位置をリアルタイムに表示するという技術に今年あたりから取り組んでいる。

今年 3 月に行われた菅平高原スキーオリエンテーリングモデルイベントで初めて採用し、5 月のつくば ROC 大会では実際のレースの中継を行った。しかし、今までは一人の選手の動きを追跡したものであって複数名の選手の動きを追跡した GPS イベントは今回が初めてである。

機材が高価（一台、約 5 万円）なことや、それに対応したソフトウェアの開発などが必要なことなどの理由により、現在まで一人の選手の追跡しか行えなかったわけであるが、今回、器材を（株）ワムネットサービスから、無償にてレンタルしていただくことができ、実現することができた。

一方、GPS によるレース中継を見せる側の仕掛けも重要である。まず、観客に対して地図が事前に公開できるレースでなくてはならない。このため選手を観客と隔離できるようなレースでない限り、通常のレースなどでいきなり使用することは難しい。ただし、今回のようなモデルイベント的なレースには効果的に使用できるものと思われる。

次に、観客に見せる装置についての工夫が必要である。現在、大画面を映し出す最も安価で有効な方法はデータプロジェクタを使用する方法である。しかしデータプロジェクタは室内が夜間でない限り使用できない。アウトドアスポーツであるオリエンテーリングでは、プロジェクタを使用するならば夜間しかないだろう。

そして最後に大事なことは集客である。ナイトイベントとなると、なかなか観客を集めることは難しい。観客を集めるのではなく、沢山人の宿泊している場所で開催することが大事である。

これらの条件を考えたとき、最も適しているのがクラブカップの前夜にキャンプ場でナイト 0 を行うことであった。実は今回のナイト 0 の発想はここから始まっていて、木村 & 高島のプロジェクタ & GPS 技術の融合とクラブカップ主催者の山川の了解をとりつけて開催することができた。また、キャンプ場管理者からデータ転送の為に電話回線を快く貸して頂いたことも大きな要因であった。

さて、実際には参加者に協力をいただいて、マッチレースを 2 回行うことができた。いくら正式なレースでないとは言え、常に人に見られていると思うと相当なプレッシャーになったことと思う。マッチレースに参加して頂いた 4 選手にはこの場をお借りして、お礼を申し上げたい。

GPS の中継画像はプロジェクタでスクリーン上に投影され、多くの観客がこの模様に見入っていた。多くのキャンプ参加者は、翌日のメインレースのこともあるし、バーベキューなどでアルコールが入っていることもあって、ナイト 0 参加者以上の観客が集まった。



レース前に GPS を装着しているところ
肩に GPS、背中に携帯電話を背負って走る

しかしながら、電話回線が 1 回線しか確保できなかったことやケーブルの取り付け不良などの要因が重なり、残念ながら満足の行く中継ができたとは言えない。2 人のランナーを同時に中継するのは今回が初めての事であり、改めて最新技術においても経験は重要であることが認識された。

確かに現時点では、相当な技術と経験を必要とするシステムではあるが、今回のレースを通じ、新たなシステムへの移行への一歩を踏み出すことができた。それは、上でも述べた（株）ワムネットサービスのシステムである。単に、同社は GPS 受信機のレンタルを行っているだけでなく、GPS データを取得し、インターネット経由にて位置情報を提供するサービスを行っている。したがって、システムのうちの技術的に難しいデータ取得および提供部分が専門業者の信頼の高いシステムで行うことが出来るため、オリエンティア（運営者）が担う部分は、最後の観客に見せる部分だけですむ。今回は、その調査という位置づけで同社の社長及び技術者 2 名が会場にて視察され、今後、是非とも協力させて頂きたいとのことであった。早速、レースの際に使用した GPS 受信機に記録されているデータを解析して頂いており、オリエンテーリングへの応用への道が更に進むものと思われる。

2005 年の世界選手権での完全中継を目指し、今後も積極的に開発・運用していく予定でありますので、ご期待下さい。

参考：

GPS for Orienteering

<http://orienteering.hoops.ne.jp/>

（株）ワムネットサービス

<http://www.wns.ne.jp/>

SonyDrive ポータブル GPS ユニット IPS-8000

<http://www.sony.co.jp/sd/ProductsPark/>

Professional/IPS-8000/